

大江泰喜、会田誠  
「原爆が 落ちる前 落ちた後」展

キュレーター：Chim↑Pom

会期：2016年7月23日～8月14日

※水曜日休み

15:00～21:00

問い合わせ：info.chimpom@gmail.com

会場：Garner@キタコレビル

〒166-0002 東京都杉並区高円寺北3-4-13

入場料：投げ銭制

協力：ミヅマアートギャラリー、ギャラリーG、ボーダレスアートスペース HAP

協賛：TERUMO



会田誠

ミュータント花子（英語吹き替え映像版）

2003

ビデオ（45分02秒）

(c) AIDA Makoto

Courtesy Mizuma Art Gallery



この度 Garter では、大江泰喜と会田誠による「原爆が 落ちる前 落ちた後」展を開催致します。

大江泰喜は、広島にある放課後デイサービス（ボードレスアートスペース HAP）に通いながら日々、段ボールやテープ、マジックなど身近な素材を使い「原爆が落ちる前の原爆ドーム（産業奨励館）」と「原爆が落ちた後の原爆ドーム」を大量に制作し続けている 15 歳の中学生です。大江の原爆ドームへの興味は「大きいから」というシンプルなものですが、そのアウトサイダー的作家性に加え、前衛芸術的なスタイル、そして政治的モチーフと綿密な記憶に裏打ちされたディテール…、というギャップが矛盾なく相まった作風が魅力です。

「落ちる前！落ちる前！」と、その人類史的大惨事の瞬間を呟きながらの制作風景を見た Chim↑Pom は衝撃を受け、HAP を主宰する木村成代が率いるギャラリー G 協力のもと、東京での展覧会を構想しました。そして、大江作品にもっとも共鳴する相手として、会田誠の「ミュータント花子」の出品を決めました。

「ミュータント花子」は、戦争画リターンのシリーズとして、1997 年、会田がグループ展で自費出版本として発表。のちに ABC 出版から出版された漫画作品です。太平洋戦争末期を舞台に、戦後日本社会の鏡とも、あるいはタブーとも読み解けるキーワードやテイスト……「ロリコン」、「歴史歪曲」、「SF」、「マンガ」などを用い、あえて幼稚な線とブツとんだ発想で描いた、おそらく日本アート史上最も過激で、コアなファンに愛され続けている芸術作品のひとつです。その先見性は言うまでもなく、右傾化とオタク化が進む現在の日本社会において批評性は増しています。



本展で上映される「ミュータント花子」の映像作品は、2005 年、会田のロサンゼルスでの個展で初めて発表されました。マンガのコマを順番にビデオ撮影し、そこに効果音と英語のセリフをアフレコし制作されています。声の出演は、会田本人や夫人である美術家・岡田裕子、画家の山口晃、美術家の松蔭浩之、宇治野宗輝、遠藤一郎、Chim↑Pom 結成前の卯城竜太と林靖高など、ユニークな面子によって行われました。

戦後 70 年を過ぎ、戦争のリアリティは薄れ、民主社会としての幼稚さは増す一方。そんな現在の日本をリプレゼンしているような両者の作品は、工作の範囲で扱える身近な素材とワイルドな作りこみ、第二次世界大戦や原爆投下という歴史的テーマを両輪とし、観るものに様々な問いを投げかけます。

戦争と平和、美術にとってのプロとアマの線引きとは？大江と会田、世代を超えた 2 人の競演が、戦後 71 年目の日本の夏を、ユルく、そして痛烈に刺激します。

上／大江泰喜（落ちる後）2015  
下／大江泰喜（落ちる前）2015